

「身近に潜む土砂災害」

愛知県 豊橋市立南陽中学校 2年 坂井 優紀

自分の祖父母は静岡県の川根本町という町に住んでいます。川根本町は山間部に位置しているため、山や崖などの急斜面が多く、台風や豪雨などによって多量の雨が降ったときには、そのようなところで、崖崩れや土石流などの土砂災害がよく発生します。

令和4年の台風15号による大雨の際には、多くの地点で土砂崩れや土石流などの土砂災害が発生しました。そのため、隣の市とつながる県道や国道が、一時通行できない状況になったり、多くの民家が飲み込まれたりするなどの被害が起こりました。この台風による土砂災害で死者や負傷者も出ていることが後から調べて分かり恐怖を感じました。また、祖父母の家の裏は土砂災害特別警戒区域に入っていて、いつ土砂災害が発生してもおかしくない状況でした。その時は、土砂災害が発生しませんでしたでしたが、もしも、土砂災害が発生したときにどうすればよいのかということを変えて感じさせられました。

自分が住んでいる豊橋市にも土砂災害が発生する可能性が高いところがあり、現在、自分が通っている南陽中学校の周りにも多くあります。中学校入学前に通っていた磯部小学校に至っては、道路を挟んだ反対側は土砂災害警戒区域で、土砂災害が発生した場合、最悪飲み込まれていたと今考えると怖かったです。

しかも、土砂災害が発生しやすい場所が近くにあるのに、中学校でも小学校でも地震や火災が発生したときの避難訓練ばかりで、過去1回も土砂災害が発生したときの避難訓練はしたことがありませんでした。正直、小学校に在籍していたとき、土砂災害は無関係なものと思っていました。

でも、中学校に入学して2カ月が経った令和5年6月の台風2号と梅雨前線による豪雨で土砂災害が近くの市で発生しているとネットニュースで見たことから近くでも発生するかもしれないと思ったことで土砂災害が無関係なものという意識がなくなりました。

最近では地球温暖化が進んだことによって大雨などの異常気象が多くなりました。それが原因で発生する土砂災害の件数が年々増加していると思われます。

これまでに書いたことを踏まえて、どうすれば土砂災害での人的被害をなくして、被害を抑えることができるのかということを考えてみました。

初めに考えついたのは、自治体が土砂災害の発生する可能性が高い斜面を補強したり、土砂災害警戒区域などの危険箇所を見直したりすることです。この方法ならそもそも土砂災害が発生しにくくなるため人的被害がなくなると思いました。しかし、その方法はお金と時間と労力がかかり、作っている間に災害が発生するかもしれません。しかも、補強されているから、土砂災害警戒区域に入っていないからと過剰な安心感を抱いて、事が大きくなるまで避難しないということがあり、かえって被害を大きくしてしまうということが起こり兼ねないのではないかと思います。なので、自分たち一人一人が土砂災害に対して強い意識をもてるようなことをする必要があったと考えました。

このことを踏まえて、土砂災害に対して強い意識を持てるようなことを考えてみました。考えついたのは、地震と同じでいつでも素早く避難できるように日ごろから準備をしておくことや避難するときに被災しないよう安全な経路や避難場所を検討しておくことです。このようなことを行い、一人一人が意識することができれば、被害は最小限に抑えられると思います。

また、地球温暖化が進むことが土砂災害の発生する間接的な原因でもあるので、石炭や石油、ガスを燃料とした電力や熱などの使用を抑えたり、冷暖房器具の使用を家庭で見直してみたりするなど、これ以上の地球温暖化を防ぐための対策をする事も、土砂災害を間接的に減らすことのできる取り組みだと考えました。

土砂災害をはじめとした自然災害は、いつ、どこで発生するかわかりません。ハザードマップでは、危険な区域ではないとされている場所でも、実は危険であったり、危険になってしまうほどの大きな災害が発生したりするのかもしれません。そのため、日ごろから災害に対して危機感と意識を

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

持って、準備をしたり、災害が発生する予兆の段階など早め早めの避難をしたりして、自分の命を、ひいては家族の命、近所に住む人たちの命を守れるようにできたらいいと思います。